

令和6年度 1学期始業式の言葉

おはようございます。

新3年生のみなさん、新2年生のみなさん、進級おめでとうございます。

今日の午後には新1年生を迎えて、明日からは3学年そろって令和6年度の学校生活が始まります。

今日、登校するときに、道すがら、桜の花を見ましたか？あちらこちらで満開ですね。ごつごつとした黒い幹から延びる枝に、透き通るような白と、薄いピンクの5枚の花びらに彩られた、たくさんの花々が、一本の木全体を包み込むように咲き誇る姿は、まるで、鮮やかな着物をまとって、おめかしして初もうでに行ったり、誇らしげに成人式に赴く人のようで、ちょっと不思議な感じがして、とても美しいですね。

その桜の花が、今年はこの時期に合わせて満開となりました。みなさんは、きっと桜の花は3月の終わりに咲いて、4月の始業のころには散っているというイメージがあるかもしれません。たしかに、みなさんが生まれた平成の後半から令和にかけて、最近の10年ほどは、桜の開花がそれまでより早くなり、4月に入るところにはすでに散ってしまうということが多くありました。

私たちが思い描くこの場合の桜の花は、「ソメイヨシノ」のことですね。みなさん知っていると思いますが、桜の木には、いくつかの種類があります。そのうち、学校やその周辺に植えてあったり、ニュースでお花見が話題になるのは、ソメイヨシノです。ソメイヨシノの他にも、早咲きや遅咲きと言われる桜など、桜の木の仲間はいくつかあります。

この、早咲きとか遅咲きという言い方は、ソメイヨシノを代表として、それより早いか遅いかで言われることが多いです。それほど、私たちにとって、ソメイヨシノは桜の代表として有名ですね。

そのソメイヨシノは、関東地方の人にとっては、長く、4月のはじめに咲くという印象でした。ですから、学校では、4月の始業日や入学式を象徴する花とされてきたのです。学校にソメイヨシノが植わっているのも、ちょうど始業式や入学式など、年度の始めに満開に咲き、お祝いや新たな出発の雰囲気彩ってくれるからなのでした。

私が小中学生のころ、昭和の時代、ちびまる子ちゃんの時代は、まさにそうでした。でも、先ほど言ったように、みなさんにとっては、ソメイヨシノは、もう少し早くに咲いて散ってしまうものという印象かもしれません。同じ時代に生きるみなさんと私では、何十年かの世代の違いで、桜の花の印象が違うのですね。

また、この時期には、天気予報で、よく「桜前線」が話題になります。細長い日本列島を見たときに、西から東、北へと桜の開花時期が少しずつずれていきます。北海道などは、ソメイヨシノの満開の時期は5月になります。

このように、自分にとって当たり前と思っていることは、他の人にとってはそうではないことがあります。私にとって、ソメイヨシノが始業日に満開であることは懐かしく思われますが、みなさんにとっては、今年は遅いなあ、もう学校が始まるのにやっと満開か、というように感じるかもしれません。

さらに、みなさんと同じ世代の人でも、沖縄県に住む人と、北海道に住む人では、ソメイヨシノが咲く時期のイメージはまったく異なるでしょう。

こんなふうに、桜の花ひとつをとっても、「当たり前」ということは、あやふやであいまいなものであることが分かります。

私たちの生きる時代は、できるだけ「当たり前」にとらわれず、多様性を尊重すること、簡単に言えば、ものごとは、見る人や見方によって見え方や感じ方が違うということが、まさに「当たり前」ということです。

それは、人と人の関係も同じことです。お互いに当たり前と思うことは、お互いに当たり前ではないのです。

ソメイヨシノは、私たちにとって桜の代表かもしれませんが、たとえば、3月上旬に咲く河津桜は、静岡県河津町から名づけられています。早咲きの桜として、とても人気があります。一方、百人一首にも歌われた奈良の都の八重桜は、4月下旬から5月上旬にかけて、あでやかに咲き誇る遅咲きの桜で有名です。

これから始まる学校生活の中で、みなさんには、桜の花のように、当たり前が実は当たり前ではないこと、自分とは違う見方や考え方をする人にも良いところや個性的な価値があることを認め合ってほしいと思います。そうすることで、色とりどりの個性があつまって、私たちの中川中の「信頼と共感」は、ますますカラフルに咲き誇るのではないかと思います。

これからの毎日の中で、みなさんには、ときどき「ちょっと立ち止まって」、そのことを思い出してほしいと思います。

それでは、1年間、よろしくお願いします。